



○3月1日 卒業式を終えて ～卒業式 式辞～要約分掲載

令和7年3月1日に第65回卒業式を無事終えることができました。この3学年は、担任の先生方と生徒たちの意思疎通がうまくできており、先生方の思いをしっかりと受け止め、いつもそれに応えようとする姿が見られました。以下の写真は、体育大会の団色と同じ色の着物をまとい、卒業式に臨む担任団です(笑)。その生徒に対する



情熱や愛情に心を打たれました。その卒業式の校長式辞を要約したものを掲載しますのでご一読いただければと思います。

～卒業証書を授与された皆さん、卒業おめでとうございます。

皆さんは、令和4年度に新学習指導要領が実施される中、新しく学科改変された「商業マネジメント科」「情報ソリューション科」の1期生として期待と不安を胸に入学されました。

2年生になるとそれぞれの学科の学びは、コースに分かれ、自身の興味・関心と将来の進むべき進路を考え自ら選択するものになりました。その中で、専門的知識や技術を深め、将来への夢や希望を育ててこられたことでしょう。

また、実践的な学びとして、チャレンジショップ「和」の経営、「桜マーケット」の開催、これらは単にビジネス体験の場にとどまらず、「起業家精神」を育む貴重な機会になりました。さらに、課題研究では、地域の課題を解決しようと様々な探究活動の展開と発表など、「延商」の学びを広く地域に知らしめ、創立103年目を迎えた本校を輝かせてくれました。

また、体育大会では、団長を中心に全校生徒の皆さんが心を一つにして、あの茹だるような暑さの中、一つ一つの競技を全力で戦い、観戦する者の心を釘付けにしました。桜華祭では、クラスの個性を爆発させ、恐れを知らないエネルギーな創造力を感じさせました。これらの経験を通じて、一つのことを創造するには、互いに協力し合い、苦楽を共にすることが不可欠であると身をもって示しました。その姿は後に続く後輩たちにとっても、大きな道標となったことでしょう。

さて、私が皆さんと本校で一緒に過ごしたのは、僅か1年間ですが、校門で元気に登校している姿にいつも元気をいただいていた。また、始業式など何度か話をさせていただく機会があり、校長通信「士魂商才」でも皆さんにメッセージを届けて参りました。今日は卒業式の最後の言葉として、皆さんに「風に立つライオンであれ!」という言葉をご紹介します。この言葉は、さだまさしさんの楽曲「風に立つライオン」のモデルとなった宮崎市出身の医師、柴田紘一郎先生に由来しています。先日、先生が2月19日にご逝去されたとの報道を受け、私は改めて映画「風に立つライオン」を鑑賞しました。この映画は、主人公の日本人医師、島田航一朗がアフリカ・ケニアで医療活動に従事し、現地の過酷な環境の中で、傷ついた少年兵たちの治療に尽力し、心の交流を深めていく物語です。この映画には、「自己の使命を理解し、どんな逆境であっても、焦らず、慌てず一つ一つの壁に立ち向かっていく」という願いが込められています。

この詩の作者である さだまさしさんは、「人はきっと一人一人が天から使命を授かって生まれてくる。人生とは自分に与えられた使命を探す長い旅であり、思い通りには決して生きられない、苦しみや悩みに満ちている。そんな人生の中にあっても、どうかその答えを見つけられた時に、人は「いきがい」や「しあわせ」を感じるのだと述べています。

モデルになった柴田先生は、生涯を通じて医療活動に尽力され、「誰かのために生きることが、自

分自身の生きる意味になる」という強い信念を貫(つらぬかれ)ました。

これからの人生には、思い通りにならないことや、挑戦を迫られる場面がたくさん訪れるでしょう。私は、皆さんに「風に立つライオン」のごとく、どんな逆風の中でも信念を貫き、失敗したっていい、何度も挑戦し、周囲の人々と深い絆を築きながら、誇り高く前進してほしいと願います。

最後になりますが、卒業生の保護者の皆様、3年間本校の教育活動に対し、ご理解と温かいご支援をいただき、誠にありがとうございました。教職員一同心より御礼申し上げます。3年生の皆さんが本校の3年間で学び経験したことは、きっとこれからの未来において、背中を押してくれる力となっていきます。3年生の努力があったからこそ、今の延岡商業高校があります。そのような卒業生たちを3年間ご家庭で支えてくださり、誠にありがとうございました。

さあ、卒業生の皆さん。これで一旦のお別れとなります。卒業生のみなさんの限りない前途を祝し輝く未来における、それぞれの活躍を心より祈念し、式辞といたします。

〇トコトン!ボーイ、トコトン!ガール みーつけた。(挑戦することを決めた生徒を紹介します)

21HR (T・Kさん 写真右側) 23HR (O・Kさん 写真左側)

2年生は、各学科にコースに分かれた学びがあります。商業マネジメント科の「地域創生コース」に「地域ビジネス」という学校設定科目が週3時間実施されています。その中で、フィールドワークをしながら、地域課題に着目し、地域の方々とその課題の解決に向けて取り組む「地域連携による実践的学習」が行われています。T・KさんとO・Kさんは前田先生が指導する「地域ビジネス」の授業の中で「若者の人口流出の増加」という課題に着目し、その研究活動の問いを「街中で若い世代が活動する場を増やすために、私たちは何ができるのか?」と掲げ、仮説を「本校Instagramで街づくりに関わる姿を発信すれば活動する人が増えるのではないかと設定し、研究しながら活動しています。

主な活動は、山下新天街に出かけていき、雑貨屋の経営者と対面で協議したり、旭化成の地域活性化推進グループの方々と連携したりして地域の魅力を周知させるための

④ 飲食店やコミュニティの場を動画で発信



の取り組みです。時には自分たちが被写体となって、店の商品の紹介や魅力を紹介する動画撮影や編集(30秒動画)を行い、Instagramに掲載していきます。これらの動画を「コネクリ延岡」という動画コンテストに応募し、グランプリを受賞することができました。タ刊デイリーなどの取材も受け、私たちの活動が徐々に認知されていく手応えを感じているようです。このような研究活動を通して、T・Kさんは、「Instagramのフォロワー数が伸びていくことで、成果を感じられた。将来、地元でこの活動を続けていきたい」と、また、O・Kさんは、「今まで、動画編集は苦手だったが、今回経験してみて、苦手なことでも挑戦することの大切さを学ぶことができた。」と感想を述べてくれました。

⑤ コネクリ延岡に参加



これからの子供たちに求める資質や能力は、『変化の激しい社会を生きる力』であり、『自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力』であると言われます。変化する社会の動きに着目しながら、今できる活動を実践している生徒たちは、着実に将来を見据える力が育っていると感じます。